

県営住宅（宮園第二団地） 12号棟外壁南面改修工事
16戸タイプ（12号棟）

図 面 リ ス ト					
図面番号	図 面 名	図面番号	図 面 名	図面番号	図 面 名
A-1	特記仕様書 1	A-6 b	1階平面図・基準階平面図（改修前） 16戸タイプ	A-11	矩形図（改修前）
A-2	特記仕様書 2	A-7 b	1階・2階・3階平面図（改修後） 16戸タイプ	A-12	矩形図（改修後）
A-3	特記仕様書 3	A-8 b	4階平面図・屋根伏図（改修後） 16戸タイプ	A-13	部分詳細図
A-4	案内図 配置図 面積表	A-9 b-3	立面図（改修前） 16戸タイプ（12号棟）	A-14	展開図 部分詳細図
A-5	仕上表	A-10 b-3	南側立面図（改修後） 16戸タイプ（12号棟）		

中南地域県民局地域整備部
有限会社 葛西設計事務所

4章外壁改修工事（共通事項）

・施工数量調査

・ポリマーセメントモルタル

・ポリマーセメントスラリー

・既調合モルタル

調査範囲

・外壁改修範囲

・図示の範囲

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面上に表示する。塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面上に表示する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

既存部分の破壊を行った場合の補修方法

・図示

・調査報告書の部数

・2部

（品質・性能）

項目	品質・性能	
だれ	下がり量	5mm以内
	表面の状態	ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ		6.0N/mm ² 以上
圧縮強さ		20.0N/mm ² 以上
接着強さ	標準条件	1.0N/mm ² 以上
	特殊条件	湿潤時0.8N/mm ² 以上
		低温時0.5N/mm ² 以上
透水性		裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他		1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2）高分子エマルションは、常温・常湿において製造後6ヶ月保存しても、変質しないこと。

（品質・性能）

項目	品質・性能
保水率	70.0%以上
単位容積質量	1.8kg/L以上
接着強さ	標準時0.6N/mm ² 以上
	温冷繰り返し後0.4N/mm ² 以上
長さ変化率	0.2%以下
曲げ強さ	4.0N/mm ² 以上

（試験方法）

（1）試料の調製

製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。

練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。

（2）保水率の試験方法

JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5Aろ紙（直径11cm）のをせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（1）で調製した試料を金べらで平滑に詰込む。

その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるよう静置する。60分後にろ紙べにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。

保水率=50/平均値×100

（注）50：リング型わくの内径 mm

4章外壁改修工事（共通事項）

・既調合モルタル

（3）単位容積質量の試験方法

JIS A 1711「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。

（4）接着強さ（標準時）の試験方法

イ）適用タイルが「モザイクタイルの場合」

（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10接着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る（全てが0.6N/mm²以上を確保していること）

ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイルの場合」

（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出またはプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。

その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。

（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。

（5）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法

（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。

（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々JIS A 6909に規定する「建築用仕上塗材」の7.11温冷繰返し試験に準じて行う。

試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちにー20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。

（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛けタイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さの試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm²以上を確保していること）

（6）長さ変化率の試験方法

JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化粉未樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。

（7）曲げ強さの試験方法

JIS A 6916「建築下地調整塗材」7.11の曲げ強さ試験に準ずる。

試験室の状態：試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4章外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁改修）

・ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法（12号棟）

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	・ ※200～300	・ ※130
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130

エポキシ樹脂注入状況の確認方法

・低粘度形

・中粘度形

※コアの抜き取りを行う

抜き取り個数

※長さ500mごと及びその端数につき1個

抜き取り部の補修方法

・※図示

・Uカットシール材充填工法（6号棟・10号棟・12号棟以外）

・シーリング材

・充填材料の種類

※1成分形又は2成分形ポリウレタン系

シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填

・行う

・行わない

・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

・パテ状エポキシ樹脂

可とう性エポキシ樹脂

（4.1.4）[4.2.2] [4.3.7]

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

4章外壁改修工事（モルタル塗り仕上げ外壁改修）

・ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	・ ※200～300	・ ※130
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70
	0.5以上～1.0未満	・150～250	・130

エポキシ樹脂注入状況の確認方法

・低粘度形

・中粘度形

※コアの抜き取りを行う

抜き取り個数

※長さ500mごと及びその端数につき1個

抜き取り部の補修方法

・※図示

・Uカットシール材充填工法

・シーリング材

・充填材料の種類

※1成分形又は2成分形ポリウレタン系

シーリング材のうえにポリマーセメントモルタルの充填

・行う

・行わない

・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

・パテ状エポキシ樹脂

可とう性エポキシ樹脂

（4.1.4）[4.2.2] [4.4.9]

・充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

・現場調査材料

（セメントは改修特記仕様書8-2コンクリート工事による）

既調合材料（

・使用する（形状

・図示

・

仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置

・※図示

4章外壁改修工事（共通事項）

・浮き部改修工法

・既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

・下地調整材

・仕上塗材仕上げ

・マスキック塗材塗り

工法の種類	アンカーピンの注入口の箇所数 本数(本/m)	（箇所/m） 一般部	指定部	指定部	注入量 (mL/箇所)
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	・ ※25
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	・ ※25
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント スラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	・ ※50
・注入口付アンカー ピンニング部分エポキシ 樹脂注入工法	・ ※9	・ ※16	—	—	・ ※25
・注入口付アンカー ピンニング全面エポキシ 樹脂注入工法	・ ※9	・ ※16	※9	※16	・ ※25
・注入口付アンカー ピンニング全面ポリマー セメントスラリー注入工法	・ ※9	・ ※16	※9	※16	・ ※50
・充填工法	—	—	—	—	—
・モルタル塗替え工法 アンカーピンの材質	—	—	—	—	—
・ ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 注入口付アンカーピンの材質	・ ※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度	・ エポキシ樹脂モルタル	・ ポリマーセメントモルタル	・ モルタル塗替え工法	・ 現場調査材料 （セメントは改修特記仕様書8-2コンクリート工事による）
・既調合材料（	・ 既製品目地材	・ 使用する（形状	・ 図示	・ 仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置	・ ※図示

（4.1.4）[4.2.2] [4.4.10～15]

工法の種類

アンカーピンの注入口の箇所数

本数(本/m)

（箇所/m）

一般部

指定部

指定部

注入量

(mL/箇所)

・アンカーピンニング
部分エポキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング
全面エポキシ樹脂注入工法・アンカーピンニング
全面ポリマーセメント
スラリー注入工法・注入口付アンカー
ピンニング部分エポキシ
樹脂注入工法・注入口付アンカー
ピンニング全面エポキシ
樹脂注入工法・注入口付アンカー
ピンニング全面ポリマー
セメントスラリー注入工法

・充填工法

・モルタル塗替え工法
アンカーピンの材質・
※ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。
注入口付アンカーピンの材質・
※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm程度

充填工法

・エポキシ樹脂モルタル

・ポリマーセメントモルタル

モルタル塗替え工法

・現場調査材料
（セメントは改修特記仕様書8-2コンクリート工事による）

・既調合材料（

・既製品目地材

・使用する（形状

・図示

・
仕上厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置

・※図示

4章外壁改修工事（共通事項）

・既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

・下地調整材

・仕上塗材仕上げ

・マスキック塗材塗り

工法	処理範囲	下地面の補修
・サンダー工法	・図示	※既存仕上面全体
・高圧水洗工法	・図示	※既存仕上面全体
・塗膜はく離削工法	・図示	※既存仕上面全体
・水洗い工法	・図示	※サンダー工法、高圧水洗工法、塗膜はく離削工法の処理範囲以外の既存仕上面全体

（4.6.3）

※下地調整塗材

・ポリマーセメントモルタル

（4.1.5）[4.2.2] [4.6.5] [表4.2.4]

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外

新規仕上塗材の種類

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材SI	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材SI	・	
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
	・防水形外装薄塗材E	・	・ゆず肌状（・吹付け
	・外装薄塗材S	・	・凹凸状（・吹付け
			・こて塗り）
			・砂壁状じゅらく
			・京壁状じゅらく
			・吸放湿性
			・適用する
			・適用しない
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹かし
	・外装厚塗材SI	・	・凹凸状
	・外装厚塗材E	・	・ひき起こし
			・かき落とし
			・上塗材
			・適用する
			・適用しない
			・吸放湿性
			・適用する
			・適用しない
・複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状
	・可とう形複層塗材CE	・	・凹凸処理
	・複層塗材SI	・	・凹凸状
	・複層塗材E	・	・上塗材
	・複層塗材RE	・	・溶媒
	・防水形複層塗材CE	・	・水系
	・防水形複層塗材E	・	・溶剤系
	・防水形複層塗材RE	・	・弱溶剤系
	・防水形複層塗材RS	・	・樹脂
			・アクリル系
			・外観
			※つやあり
			・つやなし
			・メタリック
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E	・	・平たん状
	・可とう形改修塗材CE	・	・さざ波状
	・可とう形改修塗材RE	・	・ゆず肌状
			・耐候性
			※耐候形3種
			・上塗材
			・溶媒
			※水系
			・溶剤系
			・弱溶剤系
			・樹脂
			・アクリル系
			・外観
			※つやあり
			・つやなし
			・メタリック

（4.1.5）[4.7.2] [表4.7.1]

種別

・A種

・B種

7章

塗装改修工事

・材料

下地調整

錆止め塗料塗り

塗装

7.1.3

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量
・ ※規制対象外
防火材料 ・ 次の箇所を除き防火材料とする
(箇所：)
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。

7.2.1～7

塗替えＲＢ種の場合の既存塗膜の除去範囲
・ 図示 ・ ※塗替え面積の 30%
既存錆止め塗料の鉛含有調査 ・ 行う (箇所)
・ 行わない

下地調整

下地面の種類	下地調整の種別		ひび割れ部の補修
	塗替え	新 規	
本部	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種・ ＲＢ種	—
鉄鋼面	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種	—
亜鉛めっき鋼面	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種	—
亜鉛めっき鋼面 (鋼製建具等)	・ ※ＲＢ種	・ ＲＣ種	—
モルタル面、 プラスター面	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種・ ＲＢ種	・ 行う ・ 行わない
コンクリート面（ＤＰ以外）、 ＡＬＣパネル面	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種	・ 行う ・ 行わない
押出成形セメント板面	・ ＲＡ種・ ＲＢ種 ・ ＲＣ種	・ ＲＡ種・ ＲＢ種	・ 行う ・ 行わない
コンクリート面（ＤＰ）	・ ＲＢ種・ ＲＣ種	・ ＲＡ種	・ 行う ・ 行わない
せっこうボード面及び その他ボード面	・ ※ＲＢ種	・ ＲＡ種・ ＲＢ種	—

7.3.2、3

錆止め塗料塗りの種別

塗装面		塗料の種別	工程の種別
鉄鋼面	ＥＰ－Ｇ	塗替え	・ ※Ｃ種
	以外	新規見え掛け	・ ※Ａ種
		新規見え隠れ	・ ※Ｂ種
		塗替え	・ Ａ種※Ｂ種
		新規見え掛け	・ Ａ種※Ｂ種
		新規見え隠れ	・ ※Ｂ種
亜鉛めっき鋼面	ＥＰ－Ｇ	塗替え	・ ※Ｂ種※Ａ種
	以外	新規鋼製建具等	・ ※Ｂ種※Ａ種
		塗替え	・ ※Ｃ種
		新規鋼製建具等	・ ※Ｃ種

7.4.2～7.14.2

塗装の種類	塗装面	工 程	
		塗 替 え	新 規
・ 合成樹脂調合 ペイント塗り (ＳＯＰ)	本部屋外	・ ※Ｂ種	・ ※Ａ種
	本部屋内	・ ※Ｂ種	・ ※Ｂ種
	鉄鋼面	・ ※Ｂ種	・ Ａ種※Ｂ種
	亜鉛めっき鋼面（鋼製建具）	・ ※Ａ種	・ ※Ｂ種
塗料の種類 ※１種・２種		亜鉛めっき鋼面（鋼製建具以外）	・ ※Ｂ種
・ クリヤラッカー塗り（ＣＬ）		・ Ａ種※Ｂ種	・ Ａ種※Ｂ種
・ フタル酸樹脂エナメル塗り（ＦＥ）		—	—
・ アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (ＮＡＤ)		・ Ａ種※Ｂ種	・ Ａ種※Ｂ種
・ 耐候性塗料塗り (ＤＰ)	鉄鋼面	・	・ Ａ種
	上塗り等級（１）級	・	・
	亜鉛めっき面	・	・
	上塗り等級（ ）級	・	・
コンクリート面及び 押出成形セメント板面	・	・	・
	・	・	・
	・	・	・

7章

環境配慮改修工事

・石綿含有建材の除去工事

断熱アスファルト防水改修工事

外断熱改修工事

9.1.1、3～5

施工調査
※石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によ
って石綿を含有している吹き付け材、成形板、
建築材料等の使用の有無について調査する。
調査範囲（ ・ 図示 ）
貸与資料（ ・ 図示 ）
・ 分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、
クリソタイル、クロシドライト、トレモライト
分析方法

材 料 名

	定性分析方法		定量分析方法	
	JIS A 1481-1または JIS A 1481-2	JIS A 1481-3または JIS A 1481-4		
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所
・	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所

サンプル数
採取箇所

1箇所あたり3サンプル
・ 図示 ・

9.1.1

石綿粉じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

適用	測定 名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)
・ 測定1 ・ 測定2	処理作業前	処理作業前	処理作業室内	・ 計 点
			調査対象室外部の 付近	・ 計 点
			処理作業室内	・ 計 点
・ 測定3 ・ 測定4 ・	処理作業中	処理作業中	セキュリティ ゾーン入口	・ 計 点
			集じん・排気装置 の排出口（処理作 業室外の場合）	・ 計 点
			処理作業室外 ・ 施工区画周辺 ・ 敷地境界	・ 計 点
・ 測定7 ・	処理作業後 (シート養生中)	処理作業後	処理作業室内	・ 計 点
			調査対象室外部の 付近	・ 計 点
・ 測定8 ・ 測定9	撤去後1週間以降	撤去後1週間以降	調査対象室外部の 付近	・ 計 点

測定方法
・ 自動測定器による測定

測定名称	測定方法		
	・ 測定 4 ・ 測定 5	粉じん相対濃度計（デジタル粉じん計） パーティクルカウンター、繊維状粒子 自動測定器（リアルタイムファイバー モニター）等の粉じんを迅速に測定で きる機器を用いた測定	
・ JIS K 3850-1に基づいた測定	測定名称	メンブレンフィル タ直径(mm)	試料の吸引流量 (L/min)
・ 測定 4 ・ 測定 5 ・ 測定 ・	・ 測定 4 ・ 測定 5	25	5
・ 測定 ・	・ 測定 ・	47	10
・ 測定 ・	・ 測定 ・	47	10
・ 測定 ・	・ 測定 ・		

石綿含有建材の処理

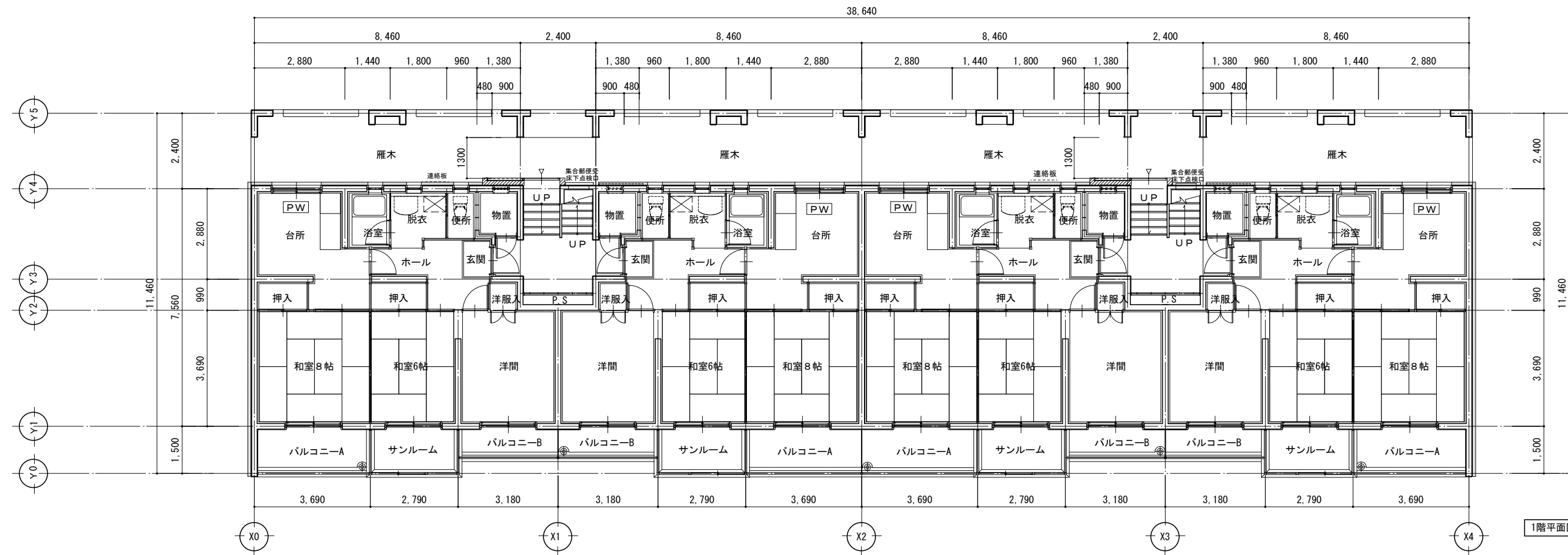
・ 石綿含有吹き付け材の除去
除去対象範囲 ・ 図示
除去工法 ・ ※9.1.3(2) (7)による
除去した石綿含有吹き付け材等の飛散防止措置
※湿潤化 ・ 固化
除去した石綿含有吹き付け材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・ 石綿含有保温材等の除去
除去対象範囲 ・ 図示
除去工法 ・ 破碎して除去 ・ 手ばらし
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※湿潤化 ・ 固化
除去した石綿含有保温材等の処分
・ 埋立処分（管理型最終処分場）
・ 中間処理（溶融施設又は無害化処理施設）
・ 石綿



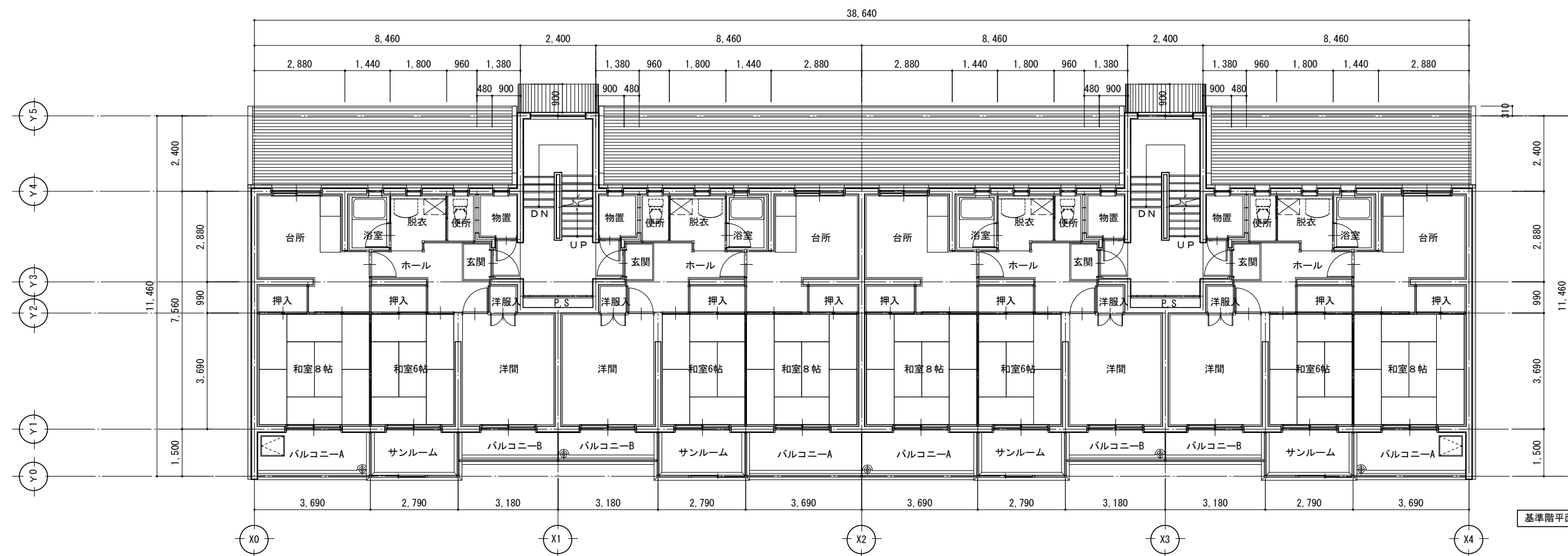
仕 上 表						県営住宅（宮園第二団地）外壁南面改修工事			
部・位		名 称	改 修 前	改 修 後		備 考			
外部改修	外壁改修工事								
		外壁（南側外壁面） （バルコニーの壁及び天井を含む）	コンクリート打放しの上 合成樹脂エマルジョン砂壁状吹付材（外装用A類）	高圧水洗浄(15MPa)後 下地調整の上、防水形外装薄塗材E		エポキシ樹脂注入工法（6号棟・10号棟・12号棟） Uカット充填工法（6号棟・10号棟・12号棟以外）			
				打継ぎ目地シーリング 既存撤去後、打直し		シーリング ： ポリウレタン系（PU-2） 25x15			
				開口部取合いシーリング 既存撤去後、打直し		シーリング ： 変性シリコン2成分形（MS-2）15x10			
		基礎廻り	コンクリート打放し 補修モルタル	高圧水洗浄(15MPa)後 コンクリート打放し 樹脂モルタル補修					
		衛星アンテナ		既存衛星アンテナ取外し、再取付け					
		エアコン室外機		既存エアコン室外機取外し、再取付け					
	屋根改修工事	南面飾り屋根	モルタル金ゴテ t＝30 アスファルトルーフィング 22Kgの上 カラー鉄板 長尺横葺 t＝0.35	既存カラー鉄板撤去後、既存モルタルの上に、ラワン合板1類 t＝12.0（特殊釘止め） アスファルトルーフィング940、塗装溶融55%アルミ亜鉛合金めっき鋼板葺 t＝0.40					
				水切：カラー鉄板 t＝0.80		水切：既存カラー鋼板撤去後 カラーアルミ水切 t＝2.0 W＝200			
				軒先：カラー鉄板包み t＝0.35 木下地120×40		軒先：既存部撤去後、新規木下地の上に、塗装溶融55%アルミ亜鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40			
				換気口屋根軒先：カラー鉄板包み t＝0.35 木下地120×40		換気屋根軒先：既存部撤去後、新規木下地の上に、塗装溶融55%アルミ亜鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40			
				側部雨押え：カラー鉄板包み t＝0.35 木下地120×40		側部雨押え：既存部撤去後、新規木下地の上に、塗装溶融55%アルミ亜鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40			
		バルコニー笠木	笠木：カラー鉄板包み t＝0.35 木下地95×30×2	既存カラー鉄板撤去後、新規アルミ笠木取付 t＝2.0 W＝200					
				既存ドレン管再塗装 DP塗り					
				既存隔て板 両面再塗装 EP-G塗り(避難案内ステッカー撤去、新設)					
その他改修工事		バルコニードレン管							
		隔て板							

改修数量	部・位	棟タイプ		24戸タイプ			16戸タイプ			12戸タイプ
		棟 番 号		7号棟	9号棟	10号棟	6号棟	8号棟	12号棟	11号棟
	外壁改修工事	衛星アンテナ（ヶ所）		4	5	5	7	3	6	3
		エアコン室外機（ヶ所）		5	1	1	2	4	1	1
	外壁クラック部分改修	C.	エポキシ樹脂注入工法			69.8m	45.5m		43.4m	
		D.	Uカットシール充填工法	ヒビ幅 0.2～1.0mm	21.4m	29.2m		4.3m		33.0m
			Uカットシール充填工法	ヒビ幅 1.0mm以上	0.6m					
		E.	樹脂モルタル充填工法	コンクリート欠損部（鉄筋露出あり）		1カ所	19カ所	2カ所	1カ所	5カ所
		F.	樹脂モルタル充填工法	コンクリート欠損部（鉄筋露出なし）	2カ所	6カ所	3カ所		2カ所	

A. 外壁改修工事			
1. 高圧水洗浄(15MPa)			
2. フィラー下地処理（セメント系ファイラー塗布）			
3. 防水形外装薄塗材E			
B. 基礎回り			
1. 高圧水洗浄(15MPa)			
2. 樹脂モルタル補修			
C. 外壁クラック部分改修			
エポキシ樹脂注入工法（自動式低圧）			
1. 補修範囲の確認			
2. 表面清掃			
3. グラウトプラグの圧着			
4. 仮止めシール材の養生確認			
5. 圧カ Tanks の取付け			
6. エポキシ樹脂充填及び養生			
7. 仮止めシール材の撤去			
D. 外壁クラック部分改修			
Uカットシール充填工法			
1. 補修範囲の確認			
2. 表面処理			
3. Uカット			
4. Uカット溝内清掃			
5. プライマー塗付			
6. 可とう性エポキシ樹脂充填			
E. コンクリート欠損部（鉄筋露出あり）			
樹脂モルタル充填工法			
1. 周囲部はつり及びケレン			
2. 鉄筋錆落し			
3. 高圧水洗浄			
4. アルカリ回復剤塗布			
5. 防錆処理			
6. プライマー塗布			
7. 埋め戻し（樹脂モルタル）			
8. 養生			
F. コンクリート欠損部（鉄筋露出なし）			
樹脂モルタル充填工法			
1. 周囲部はつり及びケレン			
2. 高圧水洗浄			
3. プライマー塗布			
4. 埋め戻し（樹脂モルタル）			
5. 養生			

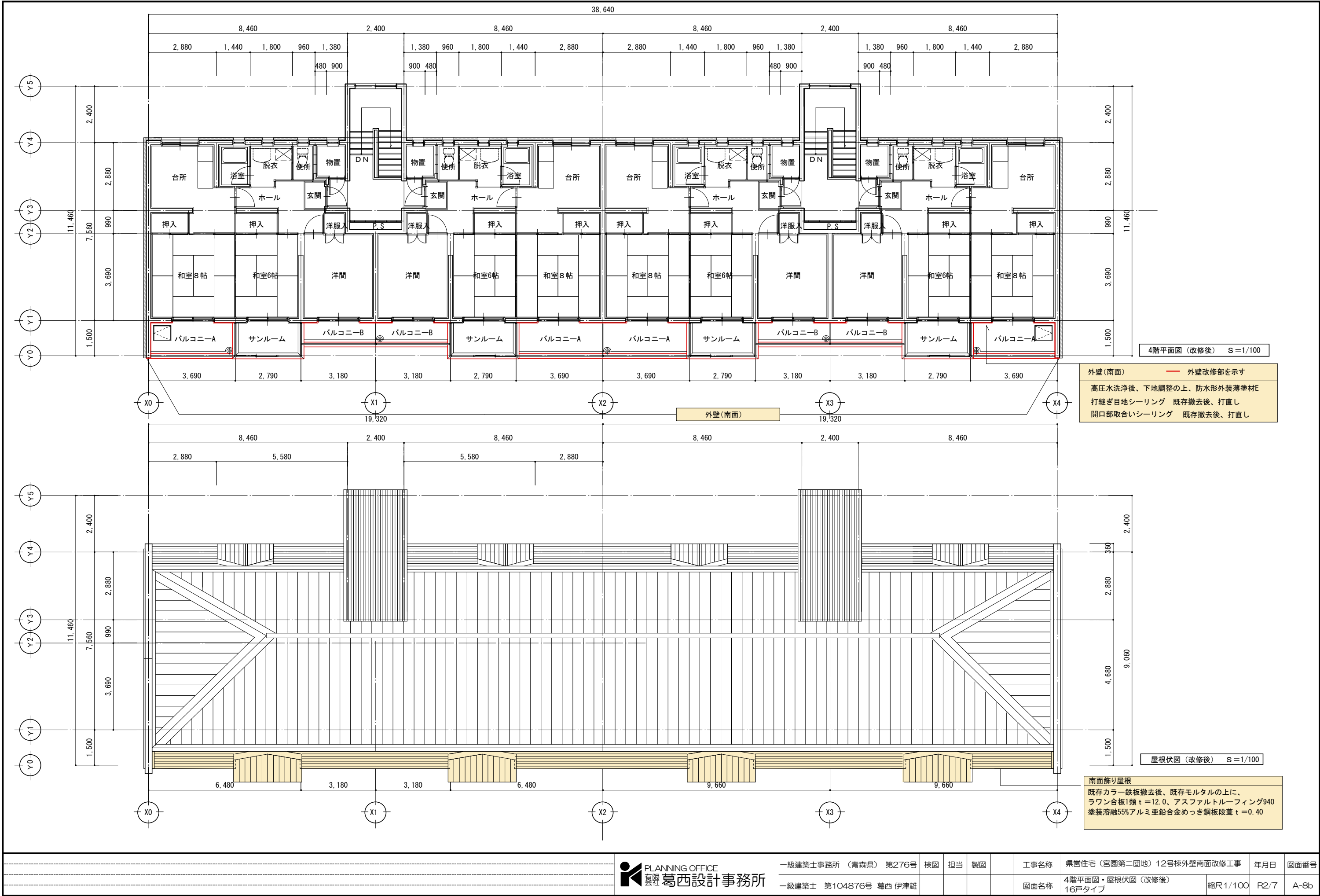


1階平面図(改修前) S=1/100



基準階平面図(改修前) S=1/100





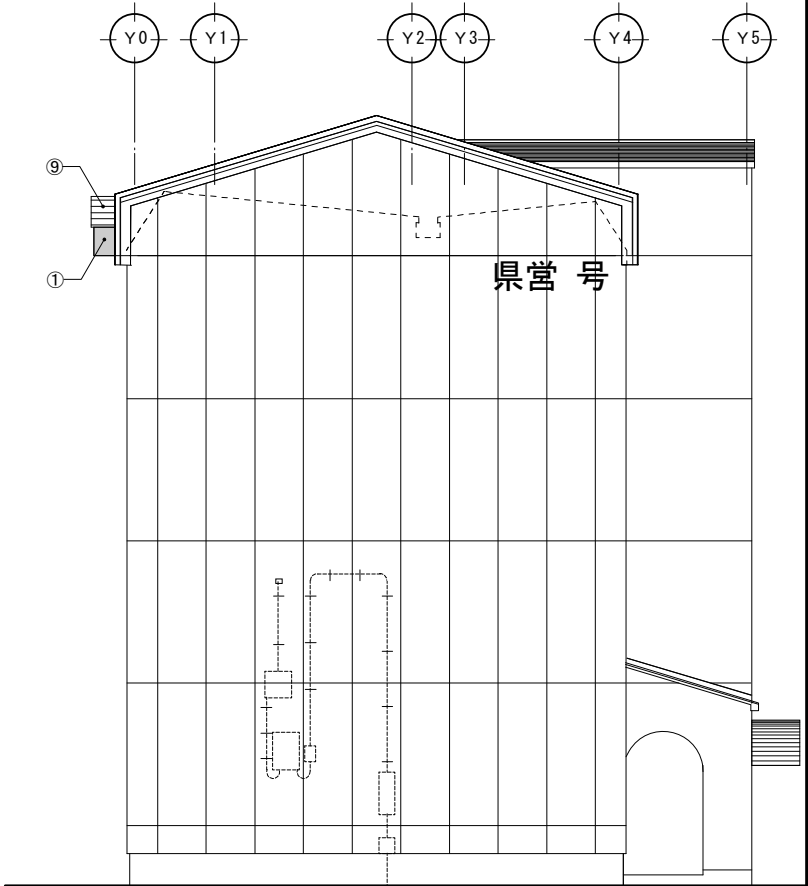
PLANNING OFFICE 葛西設計事務所		一級建築士事務所 (青森県) 第276号	検図	担当	製図	工事名称	県営住宅(宮園第二団地) 12号棟外壁南面改修工事	年月日	図面番号
一級建築士 第104876号 葛西 伊津雄						図面名称	4階平面図・屋根伏図(改修後) 16戸タイプ	縮尺 1/100	R2/7 A-8b



南側立面図（改修前）S=1/100

西側立面図 S=1/100

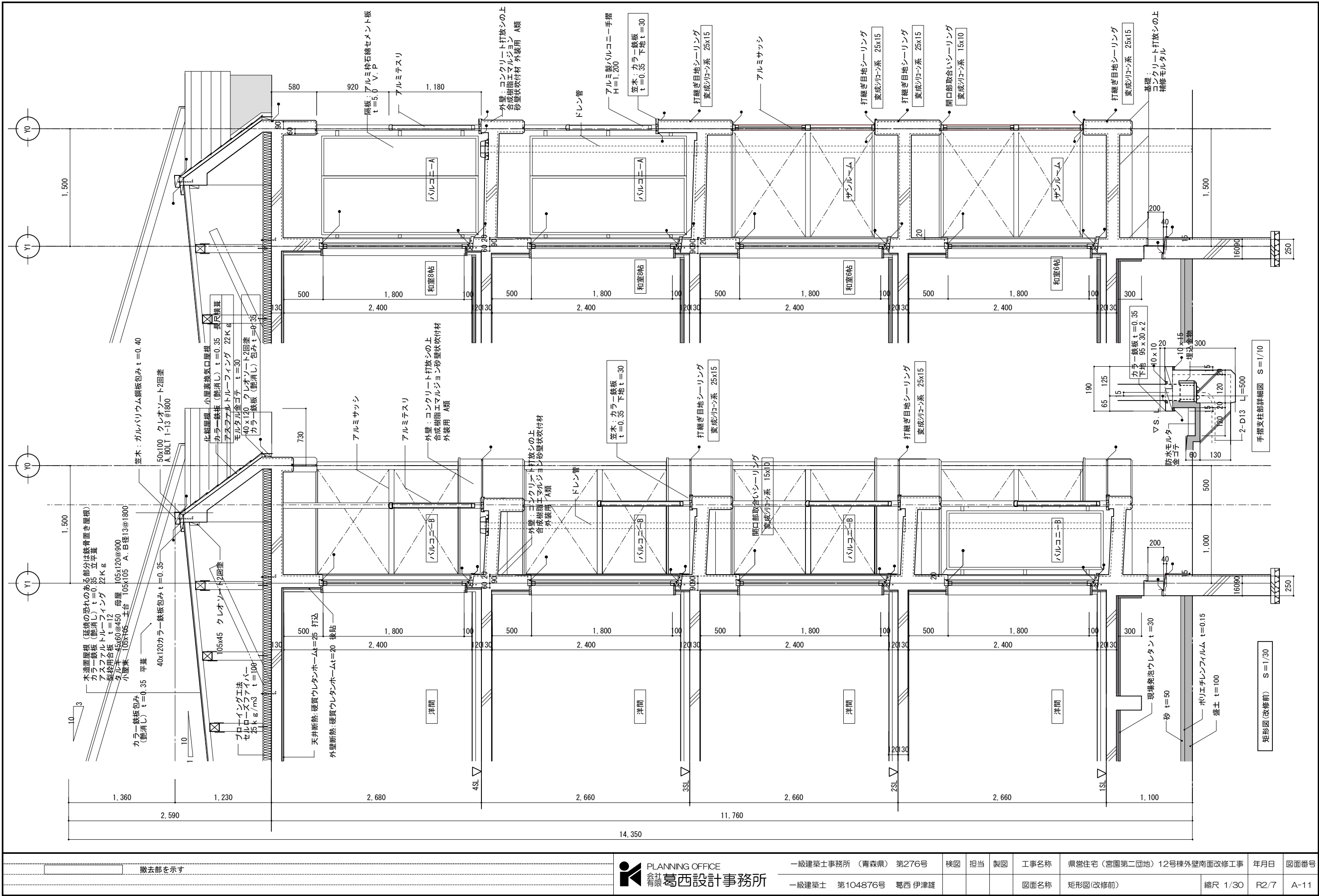
外部仕上表		撤去部を示す			
①	外 壁	コンクリート打放し 合成樹脂エマルジョン砂壁状吹付材（外装用A類）	⑨	南面飾り屋根	モルタル金ゴテ t=30 <u>アスファルトルーフィング 22Kgの上カラー鉄板 長尺横葺 t=0.35</u>
②	バルコニー 壁 天井	コンクリート打放し 合成樹脂エマルジョン砂壁状吹付材（外装用A類）	⑩	軒 先	<u>本下地120×40の上にカラー鉄板 t=0.35</u>
③	衛星アンテナ	既存衛星アンテナ取外し、再取付け 6ヶ所	⑪	換気屋根軒先	<u>本下地120×40の上にカラー鉄板 t=0.35</u>
④	エアコン室外機	既存エアコン室外機取外し、再取付け 1ヶ所	⑫	側部雨押え	<u>本下地120×40の上にカラー鉄板 t=0.35</u>
⑤	給排水トップ		⑬	換気屋根水切	<u>カラー鋼板 t=0.8 W=200</u>
⑥	目 地	打継ぎ目地シーリング <u>変成シリコン系 25x15</u>	⑭	バルコニー笠木	<u>本下地95×30×2の上にカラー鋼板 t=0.35 W=190</u>
⑦	目 地	開口部取合いシーリング <u>変成シリコン系 15x10</u>			
⑧	基 礎	コンクリート打放し 補修モルタル			



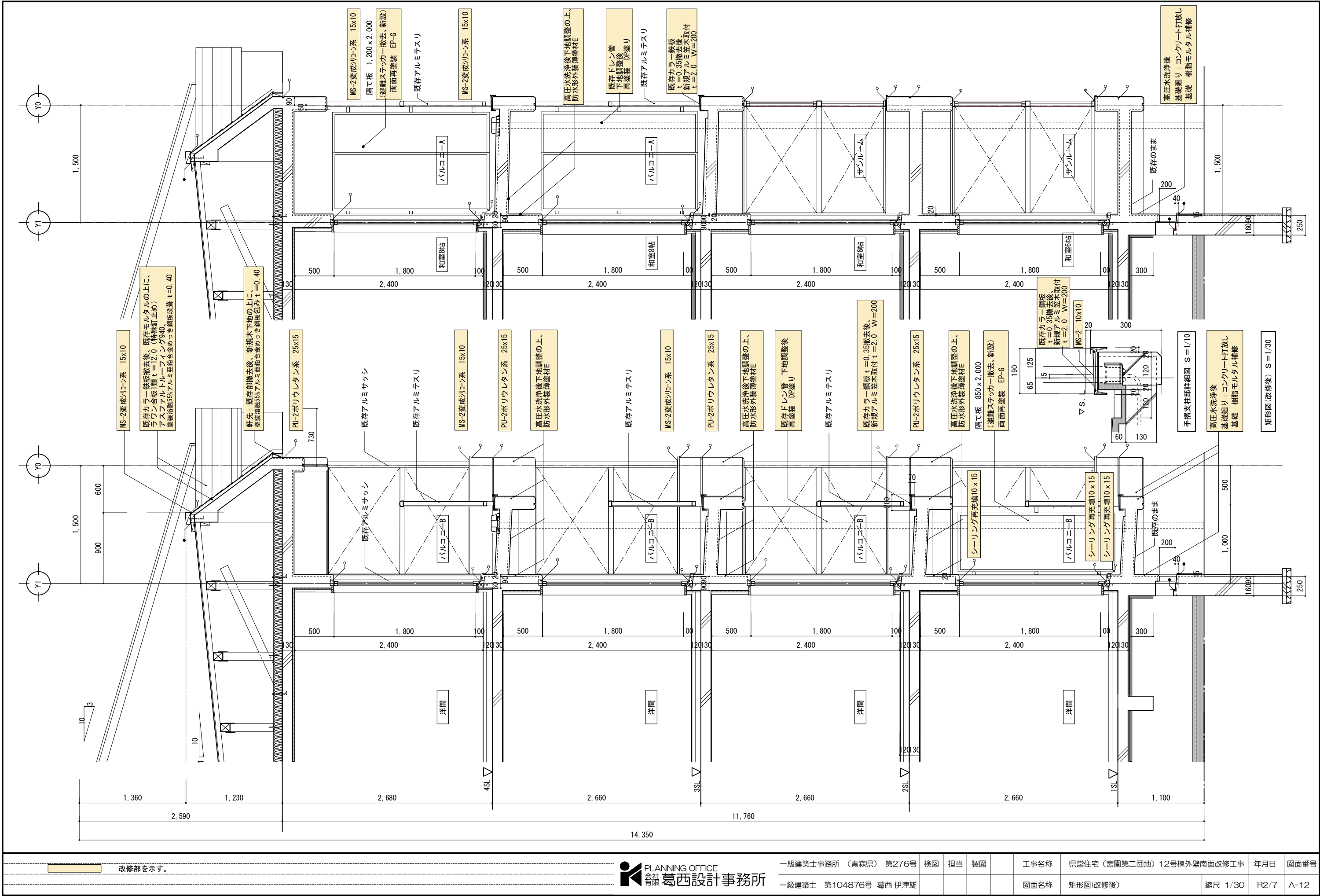
東側立面図 S=1/100



外部改修工事概要							
部位	記号	名 称	改 修 後	部位	記号	名 称	改 修 後
外壁改修工事	Ⓐ	外壁（南側外壁面 及びバルコニー天井）	高圧水洗浄（15MPa）後下地調整の上、 防水形外装薄塗材E クラック部 ： エポキシ樹脂注入工法	屋根改修工事	Ⓗ	南面飾り屋根	既存カラー鉄板撤去後、既存モルタルの上に、 ラワン合板I類 t＝12.0、アスファルトルーフィング940 塗装溶融55%アルミ垂鉛合金めっき鋼板葺 t＝0.40
	Ⓑ	打継ぎ目地シーリング	打継ぎ目地シーリング 既存撤去後、打直し ポリウレタン系（PU-2）25x15		Ⓘ		水切：既存カラー鉄板撤去後、カラーアルミ水切 t＝2.0 W＝200
	Ⓒ	開口部取合いシーリング	既存撤去後、打直し 変性シリコン2成分形（MS-2）15x10		Ⓙ		軒先：既存部撤去後、新規木下地の上に、 塗装溶融55%アルミ垂鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40 新規木下地：防錆剤2回塗
	Ⓓ	基礎廻り	高圧水洗浄（15MPa）後 コンクリート打放し 樹脂モルタル補修		Ⓚ		換気屋根軒先：既存部撤去後、新規木下地の上に、 塗装溶融55%アルミ垂鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40 新規木下地：防錆剤2回塗
	Ⓔ	衛星アンテナ	既存衛星アンテナ取外し、再取付け	Ⓛ	側部雨押え：既存部撤去後、新規木下地の上に、 塗装溶融55%アルミ垂鉛合金めっき鋼板包み t＝0.40 新規木下地：防錆剤2回塗		
	Ⓕ	エアコン室外機	既存エアコン室外機取外し、再取付け	その他工事	Ⓜ	バルコニー笠木	既存カラー鉄板撤去後、新規アルミ笠木取付 t＝2.0 W＝200
	Ⓖ	給排気トップ			Ⓝ	バルコニードレン管	既存ドレン管再塗装 DP塗り
					⓪	隔て板	既存隔て板 両面再塗装 EP-G塗り（避難案内ステッカー撤去、新設）



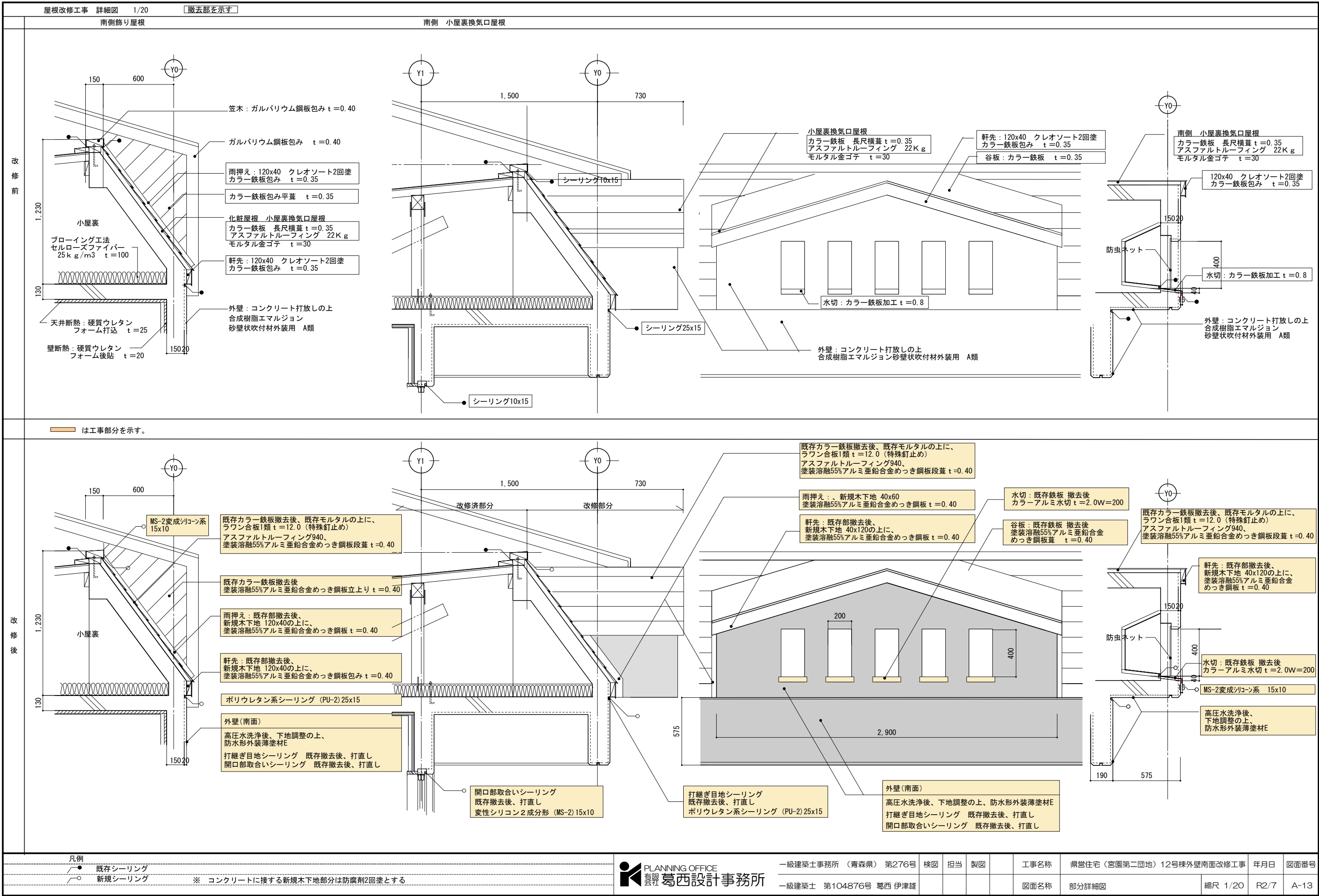
撤去部を示す		PLANNING OFFICE 葛西設計事務所	一級建築士事務所（青森県） 第276号	検図	担当	製図	工事名称	県営住宅（宮園第二団地）12号棟外壁南面改修工事		年月日	図面番号
			一級建築士 第104876号 葛西 伊津雄				図面名称	矩形図(改修前)	縮尺 1/30	R2/7	A-11

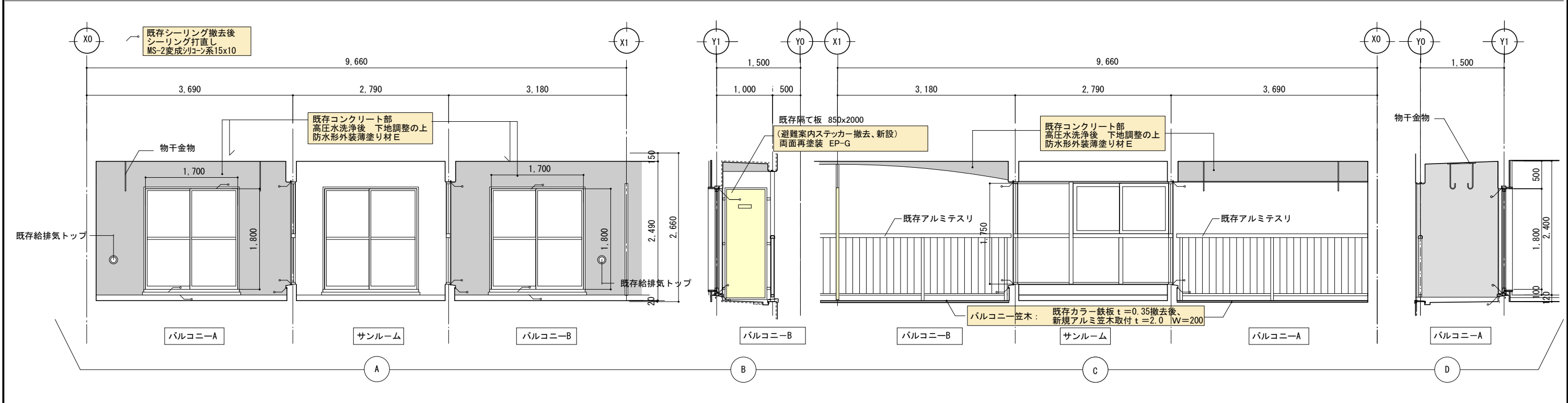


改修部を示す。

PLANNING OFFICE
有限会社 葛西設計事務所

一級建築士事務所（青森県）第276号	検図	担当	製図	工事名称	県営住宅（宮園第二団地）12号棟外壁南面改修工事	年月日	図面番号
一級建築士 第104876号 葛西 伊津雄				図面名称	矩形図(改修後)	縮尺 1/30	R2/7 A-12





部分詳細図	開口部詳細図 S=1/5	給排気トップ廻り S=1/5
-------	--------------	----------------

部分詳細図	開口部詳細図 S=1/5	給排気トップ廻り S=1/5
-------	--------------	----------------

部分詳細図	開口部詳細図 S=1/5	給排気トップ廻り S=1/5
-------	--------------	----------------

